

(参考)

これまでの検討懇話会における主な意見

## 基本的な考え方 (総論)

- ・ **都市の品格、賑わい創出、まちなかの回遊性**がキーワード
- ・ **人が集まる強力な機能**をもった施設
- ・ **当該地と周辺とのつながり**も重要
- ・ **様々な機能のハブ (結節点) の役割**を持たせる
- ・ **金沢のまちを世界に発信できるランドマーク**としては**文化**がキーワード
- ・ 金沢の人たち自身が楽しめるものが、結果、観光の資源ともなるような**現在の金沢を発信できる場所や機能**
- ・ **市民や観光客の活動がまちなかに可視化される空間**になるとよい
- ・ **市民に愛される文化的活動の研鑽と発表の場**

凡例

第1回での意見：紺色  
第2回での意見：橙色

## 下記の立地特性（当該地の強み）別で分類・整理

### 立地特性（当該地の強み）

- ① 県都の中心であり、都心の風格を感じる  
ことができるエリア
- ② 交通の要衝
- ③ 多くの人々が行き交う場所
- ④ 多くの芸術文化施設や歴史文化遺産が集積

## ① 県都の中心であり、都心の風格を感じることができるエリアに関して

- ・ 当該地は、歴史的及び地形的な面で、非常に重要な位置
- ・ 北国街道沿いであり、中心的な位置
- ・ 昔から大きな商家が立地していたこと、お城のお膝元、また惣構の内側にあった
- ・ 人が集まる強力な機能を持った施設
- ・ 当該地は、金沢の都心のまさに中心部で、都市の心臓部になるべき場所
- ・ 武蔵や金沢駅方面、片町方面へ向かうゲートとなり、かつ品格が感じられる場
- ・ 昭和から平成にかけて、このまちは昼も夜もにぎわう愉快なまちだったが、ここ数十年の間、まちなかのにぎわいが少しずつ薄れてきた
- ・ 商店街と一体とした中で、まちづくりがなされなければ発展しない
- ・ 周辺への波及効果が大事
- ・ 21世紀美術館或いはしいのき迎賓館との連携等にも留意していく必要がある
- ・ 片町再開発事業など、周辺との役割分担や連携も視野に検討
- ・ 周辺の商店街と連携しながら、まち全体として食で魅力付けしていくのもあるのでは
- ・ 空きテナントや老朽化した古い建物の建替えや改修等、まちなかが抱えている課題解決を後押しする視点も必要

凡例

第1回での意見：紺色  
第2回での意見：橙色

## ②交通の要衝に関して

- ・ 都心軸の裏通りや、裏手の香林坊にぎわい広場やせせらぎ通りとのつながりも重要
- ・ 当該地は、上下を合わせて1日 約1,800本のバスが往来する場所
- ・ 郊外と都心とを繋ぐことで都心軸がにぎわい、市民の利便性が増す
- ・ 近い将来、自動運転が現実となっていくと仮定したとき、当該地を生かしたモビリティハブのようなことができると良い
- ・ バスやシェアサイクル、新しい交通手段の普及も踏まえ、検討するとよいのでは
- ・ 回遊性が基本的な考え方のキーワード
- ・ 外周部の塀を撤去し、どこからでも敷地の中に入れるというのが大事

### ③多くの人々が行き交う場所に関して

- ・ 雨の日でも楽しめることと、観光客も市民も楽しめる施設が望ましい
- ・ まちなかには開放的な空間があるが、室内で開放的な空間が少ない
- ・ 金沢21世紀美術館のサテライトでもいいし、カフェやショップなど、市民に開放された場所として、暫定的に利用されるのも良い
- ・ 一つの機能ではなく、様々な機能のハブ（結節点）の役割を持たせる必要
- ・ 歴史的な背景を踏まえると、重要なまちのクロスポイント
- ・ 自然に人が集まることができる場所がまちなかに必要
- ・ 市民が集まれる場であってこそ、その地域の良さが出ることから観光客は、そこに混ぜてもらおう、そうした感覚で考えることが必要
- ・ 香林坊にあうイメージであれば、低層階はラグジュアリーなブランドショップ、レストランや、アミューズメント施設、ファミリー層、若者のまちなかへの回帰
- ・ 当該地周辺が、映画街や繁華街であった経緯も踏まえ検討

#### ④多くの芸術文化施設や歴史文化遺産が集積していることに関して

- ・日銀の塀がなくなり、多数の人が往来できるようになった場合、少し下ると武家屋敷街に、少し上るとお城に行けるようになると魅力的
- ・これまでの蓄積の上にある新しい今の金沢を見せていく場所や機能ができるとうい
- ・市民や観光客の活動がまちなかに可視化される空間になるとよい
- ・金沢の生活文化を表出していくことが大事
- ・コンサートや演劇が常時開催される中規模のホールを設け、ゾーンとして集客
- ・県立音楽堂や能登演劇堂のように劇団等の活動拠点になるような位置づけを目指すのはどうか
- ・金沢の人たち自身が楽しめるものが、結果、観光資源となるのが理想
- ・観光の形態も、より深く地域を感じ楽しむ方向に大きくシフト
- ・観光のために何かを行うのではなく、市民に定着した日常的な文化そのものが豊かさを増し、その素晴らしさを観光客が楽しむようなあり方が理想
- ・文化的活動の研鑽の場、発表の場となり、これが市民や来街者の目に触れることで、観光振興はもとより、市民の成長にも繋がるのではないか
- ・文化のシンボルとするような考え方は、中心地としてよい

凡例

第1回での意見：紺色  
第2回での意見：橙色

## 現在の建物等に関して

- 建物については、市民のみなが見学でき、その後の活用の方法について想像力を膨らませることができるように、一定期間は残して欲しい
- 建物は、残して何かに利活用できればよいのでは。
- 既存の建物を活用できるか否かも踏まえ検討 (例えば耐震性の面など)
- 日銀含め、都心軸の沿道建築は、内外を分断する堅いファサードを持っている印象  
道と建物の関係性において、内外を曖昧にさせるファサードやプランづくりが重要
- 例えば、ファサードなどを残すことにより、その場の記憶を残すような考え方もある
- タブの木もぜひ残して

## 現在の土地に関して

- 金沢市に土地の取得を望む
- 隣接地である銀行も含め、一体の再開発が必要ではないか

## その他の意見

- プロセスを大事に、市民も自分ごととして考えていけるとよい
- 事前に設計等の検討は進めておく等、未利用期間をいかに短縮するかが重要

凡例

第1回での意見：紺色  
第2回での意見：橙色